

10/24

## 台風 19 号による 箱根町の被害状況

台風 19 号により被害に遭われた皆さま方に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。立憲民主党神奈川県連の阿部知子代表、早稲田ゆき衆議院議員と共に、箱根町の台風による被害状況について、箱根登山鉄道労働組合にヒアリングさせていただき、箱根町長を表敬訪問しました。

箱根登山鉄道は、台風による土砂崩れで、橋や線路に甚大な被害が発生し、湯本～強羅間が長期運休。通勤通学や生活の足確保のため、バスによる振替輸送に尽力くださっています。経営面はもとより、車両整備などでも問題が。

箱根町長からは町全体の被害状況などをうかがいました。特に気になる観光への影響はどのくらいかと大変心配です。国道や県道などの一部も通行止めの状況。箱根の観光の影響は小田原にも大きく影響してきます。

当日の箱根湯本はいつもと変わらぬ様子で、観光客で賑わっていました。多くの方に箱根に訪れてほしいです。



11/22

## 漁港の駅 TOTOCO 小田原 オープン

早川港の交流施設のオープンセレモニーに参加しました。小田原の自然豊かな漁場を表現し、「魚(と)の宝庫」に由来する愛称 TOTOCO(トトコ)。小雨が降る寒い中、多くの方が参加し、さかなクンも駆けつけてくれました。早川駅から徒歩 10 分ほど、国道 135 号線沿い。

2018 年の台風の高波で、完成間近の建物が大きな被害を受けたため、堤防かさ上げなどの防災対策も行い、オープンにこぎつけました。1 階は水産物や加工品、地元の農産物の販売所で、2、3 階は海を眺めながらの食事処。

当日は大混雑だったので、次の機会にゆっくり買い物や美味しいものを楽しもうと思います。



11/12  
11/13

## 富山市まちなか 総合ケアセンター

私が所属する会派の女性議員全員で、福井県と富山県に、「女性活躍」をテーマに視察に行きました。視察した中から、「富山市まちなか総合ケアセンター」をご紹介します。富山駅に近く、出産・子育て支援や高齢者の在宅医療など健康まちづくりの拠点となっています。

### 産後ケア応援室

慣れない育児に頑張っている出産後のお母さんが、ゆっくり休むための宿泊ができる施設。専門家がお母さんの話に寄り添い、食事や入浴の時は子どもを預かってくれます。産後 4 か月までの赤ちゃんがいるお母さんが対象で、富山市だけでなく近隣 4 市町の方も利用できます。料金は、市長の思いもあり、各種補助金を活用してビジネスホテル並みに！利用者のほとんどが 1 泊ですが、一晩でいいからぐっすり眠りたい！という、子育てに疲れたお母さんたちが、安心して帰っていくので、虐待防止対策としても効果的です。12 月に国会で産後ケアに関する法案が成立！



### まちなか診療所

在宅で療養していて、さまざまな事情で通院が困難な方を対象とした、在宅医療専門の診療所。病院から在宅医療への移行を推進しています。医師 3 名で約 100 件を受け持ち、そのほとんどが終末期の方。市の取り組みをきっかけに、市内に在宅医療の開業医が増えたそうです。年をとっても、これなら安心して医療が受けられますね！



オープンから 3 年経ち、今後、国からの補助金が終わった後の自立運営が課題とのこと。

### 佐々木ナオミ 新春の集いのお知らせ

日程：2020 年 2 月 24 日(月・祝)14:00～15:30  
場所：小田原お堀端コンベンションホール  
※詳細は年明けの 1 月中旬にご案内予定です

行った！  
見た！  
聞いた！



2019 年 12 月 20 日発行  
発行責任者 立憲民主党・民権クラブ  
佐々木ナオミ  
〒250-0875  
小田原市南鴨宮 3-6-13 天野ビル 1F 西  
Tel 0465-46-6831 Fax 0465-46-6857  
ウェブサイト <https://naomi-sasaki.com/>

## 神奈川県議会本会議で初めての一般質問

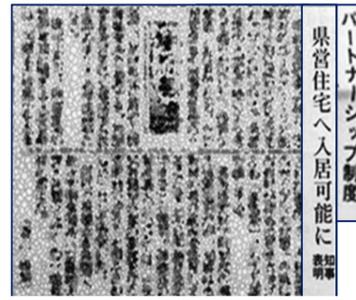
去る 9 月 24 日、県議会本会議で初めての一般質問にたちました。県西地域で初の女性県会議員として、地元小田原の皆様がこの場に送り出していただいた立場から、今回は教育、女性、多様性、県西地域の諸課題をとりあげました。



## 「ともに生きる社会かながわ」をさらに深化させるための諸課題

### 性的マイノリティのパートナーシップ制度

**Q** 性的マイノリティの同性カップルを婚姻と同等の関係と認め証明書等を発行する、『パートナーシップ制度』が各地の自治体で導入され始め、県内では横須賀市、小田原市が導入済み(続いて 12 月に横浜市、鎌倉市が)。①市町村でのパートナーシップ制度導入促進に向け、県はどう支援の取り組みをしていくのでしょうか。②また「ともに生きる社会」実現に大きく寄与するためにも、茨城県に続き神奈川県もパートナーシップ制度導入を視野にいった検討を進めてはどうでしょうか。



神奈川県新聞 (9 月 25 日朝刊)

**A** ①県では今年、性的マイノリティ支援に係る市町村との連絡会議を立ち上げ、先行して導入した自治体の制度内容や課題などの情報共有をはかり、制度導入を検討中の市町村を支援していきます。②県として現時点で制度導入に向けた検討は考えていませんが、市町村のパートナーシップ制度でパートナーと証明された方々に対して、県営住宅への入居を可能にするなどの支援を検討していきます。

**佐々木コメント** この制度で登録した方々の県営住宅入居に取り組むとの答弁、これは全国初の試みとのこと、一般質問の内容が、翌日の新聞で報道されました！

### 女性医師の確保

**Q** 全国的に医師不足の中、女性医師に注目すると、県内の女性医師の割合は約 25%で全国平均よりも高く、さらに県内の 20 代 30 代の医師では女性の割合が 3 割以上という状況。女性医師が出産や育児で職を離れた後も、再び安心して働き続けるため、また地域医療体制維持のため、①女性医師の勤務環境整備を今後どう取り組んでいきますか。②また女性医師に特化した復帰支援に取り組むべきと考えますがいかがですか。

**A** ①県では院内保育所の整備や運営に支援をしています。県の「医療勤務環境改善支援センター」では、女性医師の働き方や勤務環境改善の相談を受け、必要に応じてアドバイザーを医療機関に派遣しています。センターでは女性医師の講師が病院管理者に研修を行い、短時間勤務導入や保育時間延長など勤務環境改善を促す取り組みも行っています。②昨年度、県内 4 つの医科大学が連携し開催した「女性医師支援検討会」に、県や県医師会なども参加し、各大学の取り組み状況を共有しました。引き続き女性医師の働き方や離職した医師の状況把握、復帰支援を検討していきたいと考えています。

**佐々木コメント** 県のセンターの現行ホームページに女性医師に向けた情報を載せるなど、できることから取り組んでほしいです。



9 月に視察した、浜松市の「ふじのくに女性医師復帰支援センター」

## 小中学校での教員の補助スタッフ導入支援

**Q** 県が平成 29 年に実施した小中学校教員の勤務実態調査で、勤務時間の大幅な超過が明らかに。都道府県と指定都市を対象とした国のスクールサポートスタッフ配置事業を、近隣では東京都、千葉県、埼玉県、静岡県が、県内では川崎市と相模原市が活用中(横浜市は国に先駆け導入)ですが、本県はまだです。県は現状をどう把握し、今後どのように取り組めますか。

**A** 教員の深刻な勤務実態が判り、学校経営アドバイザーを小中学校 5 校に派遣し、勤務状況改善など助言をしています。国の動向やアドバイザーの意見をふまえ、策定中の「神奈川の教員の働き方改革に関する指針」に、スクールサポートスタッフ配置の検討を盛り込みます。

**佐々木コメント** 来年度からのスクールサポートスタッフの導入も期待できる、前向きな答弁をいただきました！

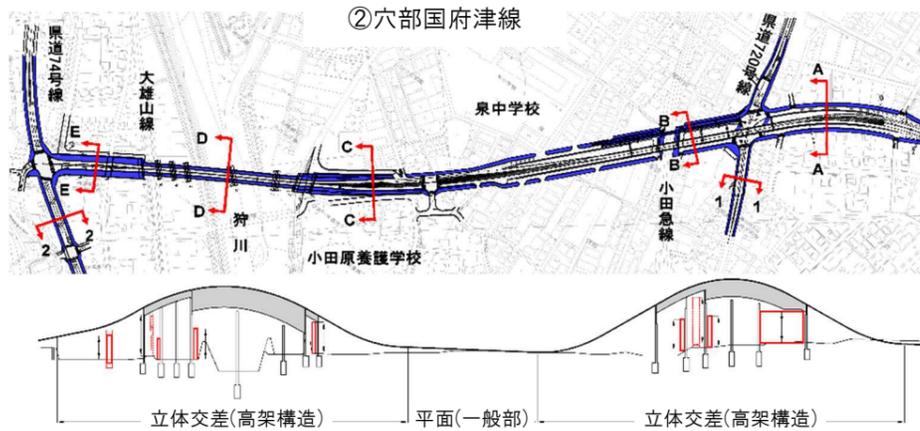
## 県西地域における諸課題

### 都市計画道路 城山多古線及び穴部国府津線

**Q** この 2 路線の整備は、県西地域の救急医療や周産期医療を担う基幹病院の小田原市立病院へのアクセス改善と、暮らしの向上や活性化に重要と考えます。市立病院立替完成時期に整備が間に合うか、取り組み状況をうかがいます。

**A** ①城山多古線は用地取得が概ね済み、埋蔵文化財の調査後にトンネル工事を行い、早期完成を目指します。②穴部国府津線は大雄山線・小田急線と立体交差で鉄道会社と合意し協議中で、用地取得も体制を強化し進めています。

**佐々木コメント** 住民説明会を開催し早急に進めてほしいです。



### 西湘地区体育センター利用者のサービス向上

**Q** スポーツ拠点が少ない県西地区では貴重な施設ですが、老朽化が進んでいます。来年 4 月から新たな指定管理期間に入りますが、利用者のサービス向上に向けて、どのように取り組んでいきますか。

**A** 来年度からテニスコート改修やトイレの洋式化など実施予定です。また未病センターに認証され、健康相談や運動指導など、拠点として活用します。

**佐々木コメント** 体育センターのさらなる利活用の拡充に向けて、検討してほしいです。



痛んだテニスコート



故障中の手洗い

### 鳥獣被害対策

**Q** 県西地域では里山に加え市街地にも鳥獣が出没し、農業や人への被害が深刻です。県は被害対策支援センターを設置し、地域ぐるみの対策や支援を行っていますが、高齢化や担い手不足などの現状、多くの地区で対策を進めるにはどう取り組みますか。

**A** 農協や市町村職員など地域事情に詳しい方に県のアドバイザーになっていただき、担い手を増やし地域ぐるみの対策ができる体制作りを目指します。

**佐々木コメント** イノシシの捕獲は危険を伴い、時間、労力、金銭的負担の上、生き物を殺す精神的な負担も。担い手の負担軽減策の検討を！



11 月、上曾我の皆さんがイノシシのメッシュ柵を設置する作業を見学。設置後の柵の点検も欠かせないとのこと。



11/23

## そもそもカジノ必要な？カジノ問題学習会 @おだわら

横浜市の林市長がカジノを含む統合型リゾート(IR)誘致方針を突然表明したことに対し、立憲民主党神奈川県連は、県内でさまざまな活動を展開しています。”横浜のカジノ建設計画が小田原にどう影響するか”、学び考える学習会を、川東タウンセンターマロニエで開催し、多くの皆さまに参加いただきました。



**真山勇一 参議院議員** 横浜市のカジノ計画は、例えば東京ディズニーリゾートにカジノを付けるとイメージできます。国会で IR 整備法が成立してしまいましたが、民意でカジノを作れないようにしたい！横浜での「住民運動」で NO! の民意の結果が出せれば、他の地域でのカジノ進出も食い止め、住民運動への力にもなるはずです。

**おぎわら隆広 横浜市議会議員** カジノは横浜だけの問題ではなく、神奈川県全域に影響を及ぼす計画です。横浜の事業規模はマカオやシンガポールより大きく、集客ターゲットの 6 割以上を国内と想定し、横浜から車で 1~2 時間の首都圏、神奈川県全域が入りますが、ギャンブル依存症対策は具体的に何も決まっています。また、カジノによる横浜市の税収増加が、現在の税収を大きく上回ると見込み、横浜市の財政、経済が、カジノ依存となります。

**須田こうへい 神奈川県議会議員** 韓国で唯一国民が入れるカジノ「カンウォンランド」を視察。ここは都市部から 3~4 時間の立地で、ギャンブル依存症約 3,000 人のうち約 54%が首都圏在住者(2013 年)。韓国人の入場は月 1 回の制限がありますが、日本の IR 整備法では日本人のカジノ入場は週 3 回、月 10 回までと制限がゆるいです。横浜のカジノで小田原市民にギャンブル依存症が出る可能性は高いと思われます。カンウォンランドでの喫煙、飲酒率は韓国内ワースト、自殺率も 1.8 倍ですが、これら数値はカジノの影響に算定されていないので、マイナスの影響は「計り知れない」です。

**早稲田ゆき 衆議院議員** がコーディネーターとなって、パネルディスカッションと、質疑応答。



限られた時間ながら内容の濃い学習会でした。神奈川県民、国全体の問題として、多くの皆さまにこの問題を知っていただき、横浜への応援をしていきましょう！

10/27  
12/1

## 各地域で県政報告会開催中！

鴨宮駅南口の事務所および尊徳記念館で、県政報告会を開催しました。9 月の県議会一般質問でとりあげた諸課題を中心に、小谷英次郎 小田原市議も参加して、意見交換しました。参加者の皆さまからの感想の一部です。

私達の暮らしと切り離せないテーマを、議会で活動されていることを知り、頼もしくありがたいと思う。

県には、女性医師復帰支援など、女性活躍推進を具体的にやってほしい。

今日のお話でうなずくことが多々あった。まっとうな政治は、私達に任されている。



10/14

## パートナーシップ制度って何？小田原市の事例と県の取り組み学習

多様性のある社会を目指し活動をする「あしがら象の映画館」主催による学習会に参加。私が小田原市議の時に一般質問をしたことがきっかけで、小田原市でも 2019 年 4 月からパートナーシップ制度がスタートしました。今回、小田原市人権男女共同参画課の課長さんを講師にお迎えして、パートナーシップ制度制定にいたるまでの過程や現状と課題についてお話をうかがいました。

私からは、先の県議会での一般質問の様子をお伝えしました(表紙ページ参照)。駆けつけてくださった石川大我参議院議員からは、国での法整備の状況や、自治体に望むパートナーシップ制度のあり方などをお話いただきました。